

時短特集

～11月14日 統一土曜閉所をきっかけに～

土休を考えよう

魚は僕らを待っている？

～おさかな天国 築地市場へようこそ！～

トピックス：2009 年度 日建協 各委員会スタート！

- ◇時短推進委員会
- ◇建築アドバイザー会議
- ◇賃金政策委員会
- ◇土木アドバイザー会議

加盟組合交流日誌

- ◇大和小田急建設労働組合
- ◇東洋建設職員労働組合

つくりあげるのは私たち、職場・環境・明るい未来

— 鉄建建設職員組合

クロスワードタイム 他





土休を考えよう

～11月14日

統一土曜閉所をきっかけに～

We♥土休

曜日	作業内容
月	1階躯体工事
火	〃
水	〃
木	〃
金	1階立上コンクリート打設
土	休(統一土曜閉所)
日	休



みなさん、『ワーク・ライフ・バランス』はとれていますか？

『ワーク・ライフ・バランス』は日建協加盟組合員のみなさんはもうご存知ですね。日本語にすると「仕事と生活の調和」になります。最近、テレビ等でも多く目にするようになりました。

『ワーク・ライフ・バランス』の実現は、私たちの生活の質を高めるだけでなく、企業にもメリットをもたらすとされています。『ワーク・ライフ・バランス』がとれた社員は職場での労働意欲が高く、その分企業業績への貢献度も高くなると考えられているのです。

また、社員の定着率がよくなり、優秀な人材にきてもらえたり、企業イメージのアップや社会的責任につながるということから、企業も取り組みを始めています。

それに何より、私たちには『働くこと』以外にも『やりたいこと』、『やらなければいけないこと』がたくさんあります。趣味、スポーツ、ボランティア、自己啓発、地域活動、子育て、介護、etc…。

その実現のためには、『時間』『健康』『お金』そして『自分の意思』『周囲の協力』などが必要です。なかでも、建設産業に働くわたしたちに共通して足りないものは、『時間』ではないでしょうか。

仕事に偏りすぎた『時間』を私たちの生活のために取り戻すために、この11月14日統一土曜閉所日をきっかけに、『ワーク・ライフ・バランス』の実現にむけた私たちの時短推進活動に重点をおいて、みんなで考えていきたいと思います。

スパイラルアップで行こう！

時短を進めると、私たちはもっと自由な時間をもつことができるはず。心と身体をリフレッシュすることで、仕事にもまた前向きな気持ちで向かい、業務時間中の作業能率や生産性を上げることができます。余裕ができれば自己啓発にも取り組みやすくなりますね。

「必要な資格を取って自己実現したい」「パソコンのスキルがあればこの作業は短時間でできるはず…(泣)。」なんて思ったことはありませんか。

時短が進んで長時間労働が解消し、『ワーク・ライフ・バランス』が実現した建設産業になら、自分の後輩や子どもたちにも「仲間になろう」、「入っておいで」と胸を張って言えますよね。

1.働く意欲の向上にむけて



2.建設産業の魅力向上にむけて



所定外労働時間は増えている

建設産業を取り巻く外的環境は厳しく、今の私たちは相変わらず長時間労働を余儀なくされています。

日建協時短アンケートによると1か月の所定外労働時間(休日労働時間含む)は、日建協平均で62時間、外勤技術系に限れば85時間という長時間労働になっており、「生活」の時間どころか『健康』を維持するための休養時間も不足しているのが現状です。(図1)

この10年間の傾向をみると、外勤と内勤共に所定外労働時間に増加傾向が見られることがわかります。人員削減、厳しい受注環境、特にここ1年から2年は公共工事入札における総合評価方式の導入、四半期決算導入といった変化も影響しているという声が上がっています。

また、厚生労働省は、2～6ヶ月間に平均80時間を超える長時間労働を行うと、脳・心臓疾患の危険性が高まるとしています。健康を確保するという観点から、図2のように外勤技術者の半数が健康障害のリスクを負って働いているような今の状況は、早急に改善しなければならないのです。

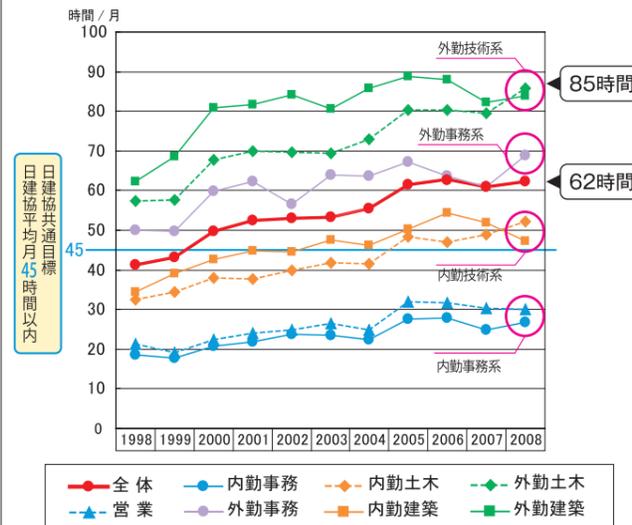


図1 所定外労働時間の推移

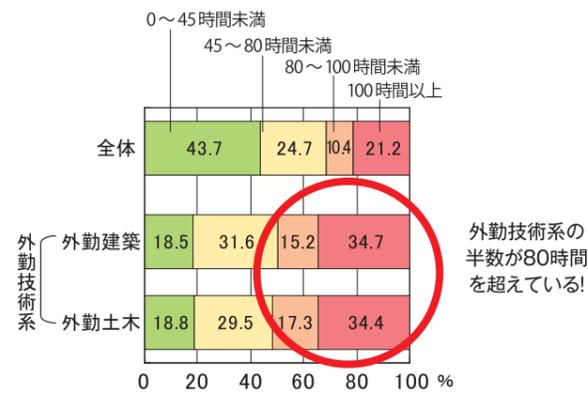


図2 外勤技術者の労働時間

作業所はなかなか休めない

こうした状況下、まず外勤者の長時間労働を改善し、健康かつ文化的な『ワーク・ライフ・バランス』がとれた暮らしを実現していくにはどうしたら良いのでしょうか。

外勤者の所定外労働理由は、時短アンケートによると、

- ①仕事量が多く、時間内に処理できない(45.2%)
- ②仕事の性格上、早出・残業がある(40.8%)
- ③発注者向け書類等の業務が多い(35.2%)
- ④社内書類等の事務処理業務が多い(32.0%)
- ⑤工程が厳しい(29.8%)

となっています。

外勤者は、内勤者と比べて「②仕事の性格上、早出残業する必要がある」との回答が多く、日中は施工管理、所定外時間に準備作業や事務処理をしなければならない建設業の特性が見られます。

また、「③発注者向けの書類等の業務が多い」「⑤工程が厳しい」といった回答からは、作業所や自らの工夫にも限度があり、加盟組合企業や建設産業全体といった大きな単位で取り組まなければならない課題がそこに存在することがわかります。

図3は、所定外労働時間の内訳です。85時間のうち平日残業時間が48時間、休日出勤時間が37時間となっています。

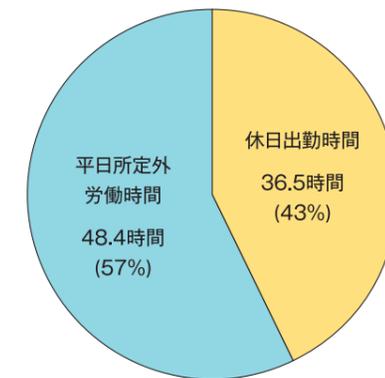


図3 休日と平日の所定外労働時間内訳(外勤)

まず、この休日の所定外労働時間を減らし、無くすことができれば、しっかり休息をとる時間が確保でき、仕事ではなく、自分のために使う時間を確保することができるようになると思います。



みんなの休日に関する意識は、どうかな？

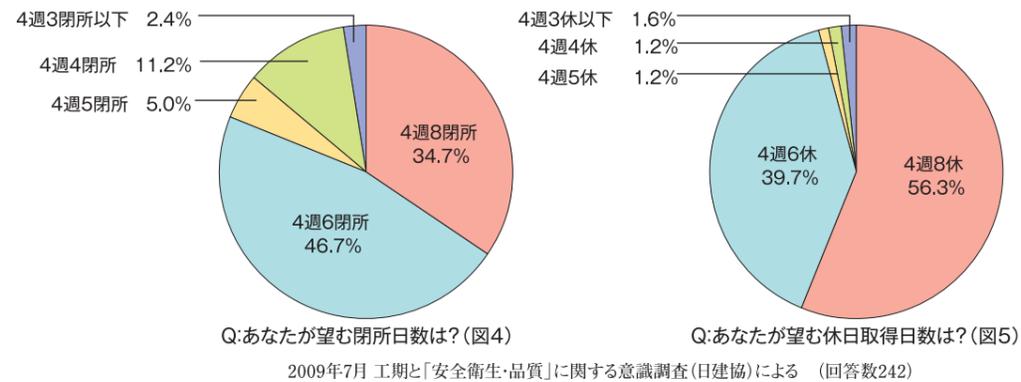
みんなの意識は？

●作業所勤務の方に望む休日日数や閉所日数について聞いてみました…

みんな4週8休を望んでいる!!

作業所勤務の組合員を対象に行った意識調査によると、4週8閉所は現状では難しいとしながらも、**4週6閉所以上を望む方が8割を超えています。**

個人の望む休日については、**半数の人が4週8休を望んでおり、4週6休以上でみると96%にもものぼります。**



●仕事と生活の時間のバランスについての調査によると…

自分の生活時間を増やしたい

日建協「生活意識・実態調査」によると、生活時間を増やしたいと望んでいる組合員は、約8割になります。多くの組合員が現在仕事に充てている時間を生活時間に振り分けたいと感じていることが読み取れます。

そして、仕事の時間、生活の時間のどちらかが極端に長い人よりも、どちらも適度に配分できている人ほど、満足感が得られているという結果もでています。会社組織の一員として、会社に貢献し、やりがいをもって働くことも大切だと考えており、一方で、自己啓発したり、家族との団らの時間を設けたり、地域社会のためにも時間を使いたい、充実した生活をしたいと希望しています。

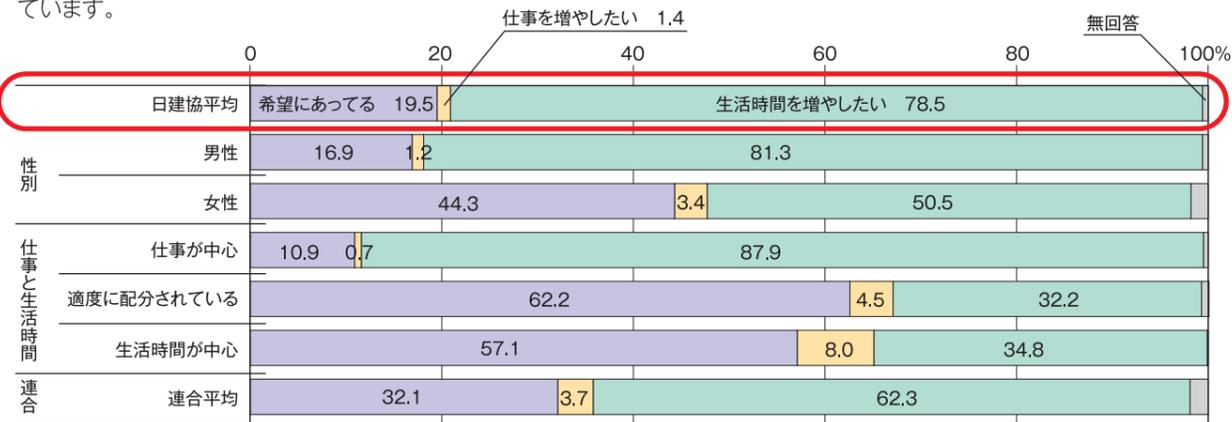


図6 仕事と自分の生活時間のバランスに対する希望



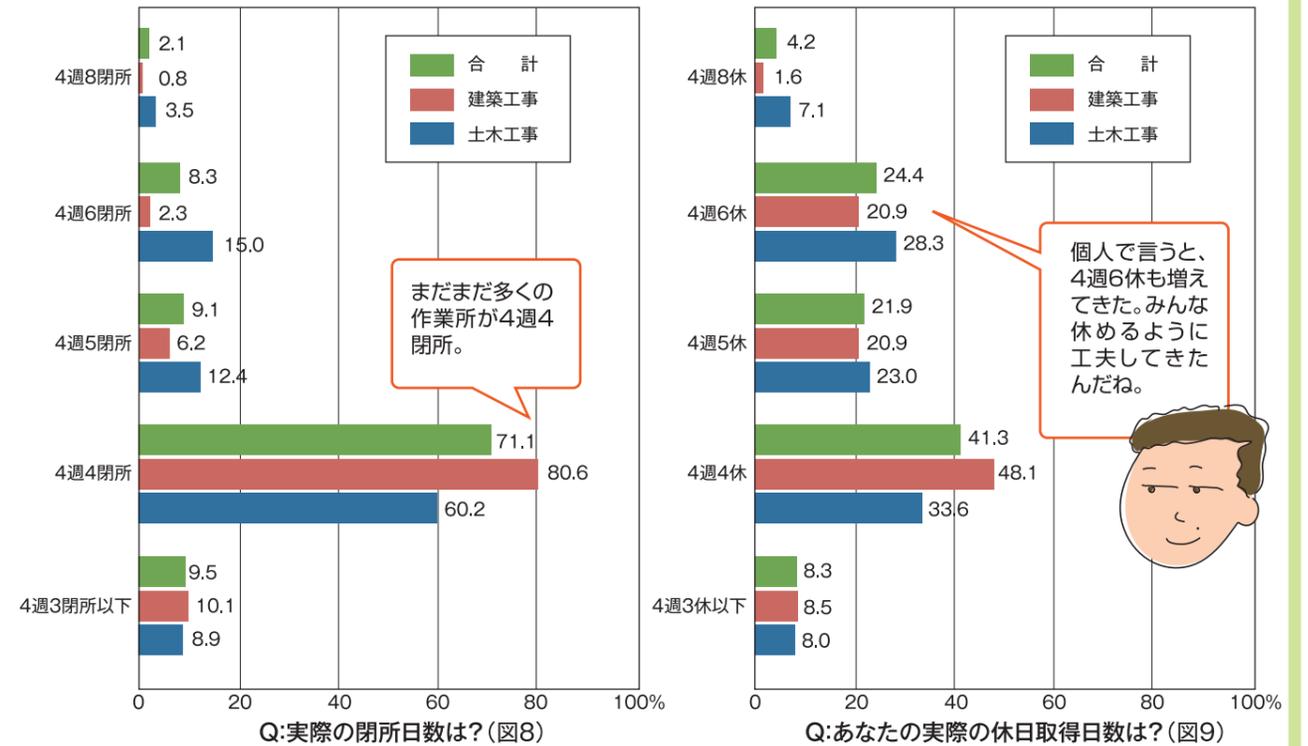
図7 仕事と自分の生活時間のバランスに対する希望

2007年2月「生活意識・実態調査」(日建協)による

でも…現状は？

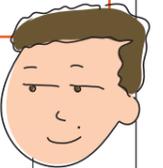
現状は、まだまだ圧倒的に4週4閉所が多く(図8 全体で71.1%)、個人の休日として週休2日制ができている作業所勤務の方は非常に少ないのが現状です(図9)。しかし、4週4閉所の作業所が多いなかでも、交代で休んだり、工夫して4週5休や4週6休が取得できている人もいます。

4週8休を実現させるためには、まずは作業所4週6閉所ができる環境づくりが必要です。



まだまだ多くの作業所が4週4閉所。

個人で言うと、4週6休も増えてきた。みんな休めるように工夫してきたんだね。



4週6閉所や8閉所、そして4週8休を実現するために

日建協で2007年に実施した作業所アンケート結果によると、契約時の工期設定において、国土交通省の公共工事では「平成9年度以降の直轄工事の工期設定及び作業不能日の条件明示について」(平成9年5月21日建設省技調発第97号)の通達に基づきほとんどの工事で4週8休(閉所)の工期設定が明示されていました。

しかし、民間建築工事においては約8割が契約時に休日条件が明示されていません。そのため、民間建築工事契約時においても、公共工事と同様の工期設定が必要であることを、産業に関わる関係者(国土交通省・厚生労働省・業界団体・設計者団体・企業経営者など)や発注者に対して提言しています。

休日が取得できない要因である短工期設定が続く限り、作業所内で交代で休みをとるにも限界があり、企業内の努力だけでは解決が難しく、労働時間の高止まり傾向が大幅に改善されることは困難です。

このような課題に対しては、産業全体で取組む必要があることは言うまでもありません。そこで私たちは実現にむけての行程を示した「ロードマップ」を作成し、提言活動を進めているので

⇒実現にむけてのロードマップ(次ページ)



提言書「民間建築工事の「4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定」の実現にむけて」(2007年7月)

自分たちにできる時間づくり

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の知名度は、この1年で随分上がったように思います。企業も経営戦略として取り組むところが増えており、政府や日本労働組合総連合会（連合）もこれを推進しています。こうした社会の流れの中で、これからも『ワーク・ライフ・バランス』が実現できる社会にむけた様々な施策がとられていくと思いますが、「生活の時間」を手に入れるために、私たちはこれを見守り、時には声をあげ、社会の流れとともに建設産業においてもこれを進めていかなければなりません。

また、私たち一人ひとりの努力も、同時に必要ですね。「生活」の時間が足りず、「仕事」に軸足を置かざるを得ないのが、私たちの置かれている現状だと思いますが、制約の中でも「仕事」と「生活」をうまくマネジメントして「生活」の時間を作り出していく努力を、これからも続けていく必要があるのではないのでしょうか。

例えば…

- グループでは**
 - ★休日と「早帰り日」をグループで決めて、月間予定表に書いてみよう。
 - ★みんなが抱えている業務を洗い出して（見える化して）、優先順位をグループで決めて効率化をはかろう。
- 個人では**
 - ★「早帰り日」は退出時刻を決めて、効率的に業務を終わらせよう。
 - ★一日の時間帯を区切って、「集中する時間（メリハリ）」をつくってみよう。

統一土曜閉所運動の広がり

これまでに、建設産業における時短推進の必要性、増加する所定外労働時間、提言書「民間建築工事の『4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定』の実現に向けて」などをみてきましたが、これらは、私たちや加盟組合企業だけで考えていても進まない産業全体としての課題でもあります。

こうした状況下、「統一土曜閉所運動」は、私たちがワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけとなるだけでなく、加盟組合企業と労使協働で時短推進活動を進める契機の1つとなり、また、行政・業界団体等への協力要請を通じて、建設産業で働く私たち組合員の長時間労働削減やワーク・ライフ・バランスの推進を対外的に訴えかける機会にもなっているのです。

建設産業における長時間労働削減が大きな流れとなり進展するように、建設産労懇（日建協・全電工労連・建設連合・道建労協・通建連合・長谷工グループ労働組合）の仲間達と一緒に、また、日建協未加盟組合にも声をかけるなどして、取り組みを進めています。



建設産労懇プレス発表



行政に協力依頼



業界団体に協力依頼



加盟組合企業に協力依頼

これからも仲間と一緒に

これまで考えてきたように、時短の推進は、ワーク・ライフ・バランスを実現し、私たちの健全な健康状態を保ち、より豊かな生活を送るために、必要不可欠なものです。現状を変えていくためには、一人ひとりが自らの問題と認識し、取り組んでいくことが大切です。そして、個々の力が集約され大きな力となったとき、さらに大きな変化を創り出し、建設業のワーク・ライフ・バランスが実現されるのです。

みなさんと日建協が築いてきた歴史は、時短に対する取り組みの歴史でもあります。「現場全休日（月2日）の設置」を求めた60年代、「全日曜全休」を求めた70年代、週休2日制が一般的になる中で、第2・第4土曜日を軸に閉所運動を始めたのは90年代です。足並みを揃えて統一閉所日を設けて取り組みを始めたのは、今から7年前、2002年の勤労感謝の日でした。

現在も、各種会議や委員会を通じて、「作業所異動時休暇制度」「ノー残業デー」等の時短施策について情報を交換し、制度導入や運用充実に向けての取り組みを行っています。

この11月の時短推進強化月間・統一土曜閉所運動を通じて、時短全般について考え、取り組みを進め、建設産業を担う次世代の仲間のために、そして自分自身のために、魅力的な建設産業を築いていきましょう。

「日曜日は休もう」という運動から30数年、「土曜日は休もう」という時代もあったなあ、と笑って言える日を実現したいものです。



1969年
時短連絡会議



1976年
全日曜を休もう



2002年
統一土曜閉所開始



2009年
新聞広告



2009年11月(今回)
統一土曜閉所

◆11月時短アンケートのお願い

日建協時短アンケートは毎年11月、組合員の約25%（約1万人）にご協力いただいています。労働時間、休日取得状況、時短推進活動などのデータを収集しており、建設産業の労働実態の現状を的確に表す貴重な資料となります。

この調査資料を基に行政（厚生労働省、国土交通省）、業界団体、発注者団体、加盟組合企業等に、労働状況を伝え、声を上げています。

今年も私たちの労働条件向上のための調査にご協力をお願いします。



魚は僕らを持っている?

～おさかな天国 築地市場へようこそ!～



見学通路入り口前
左より中村副議長
寺内副議長
那須事務局長



眠 気もなんのその。いざ、築地へGo!

すきだといわして さよりちゃん
たいしたもんだよ すずきくん
いかした君たち 見習って
僕もかれいに 変身するよ～ (おさかな天国より)



ということで、今回は、日建協本部の同期3人衆が、東京の台所、築地市場を見学しました。

早朝5時より開始のマグロの競りを見学しようと、気合十分で4時半に正門前へ集合し、いざ場内に入場! いや、ちょっと待った、その前に守衛さんに場内案内のしおりをいただいて、注意事項をよく聞いてから…。

築地の醍醐味、マグロの競りの見学は、外国人観光客のマナーが悪く、業務に支障が出るということで昨年の12月から一ヶ月ほど中止されていました。観光振興の観点から再開されていますが、マナーを守って行儀よく。そう、決してマグロに抱きついたりキスをしたりターレットトラック(運搬用車両。通称ターレ)を乗り回したりしてはいけません。
「Are you ok?」「Of course!」

2 んなに大量の魚が一体どこから??

まずは、場内の地図を確認し、一目散に冷凍マグロの競りが行われる室内の見学通路をめざしましたが、途中でものすごい量の「すずきくん」や「さよりちゃん」や名前の知らない魚やらに出くわし、思わず立ち止まってシャッターパチリ。日本中、いや、世界各国から水揚げされた魚たちです。



もちろん、これほどタイ量の鯛(?)を見たのも初めてです。まさに大漁です!

冷 凍マグロの競り場へ

そして、いよいよ5時に入場が許可され、一番乗りで場内に入場。その瞬間、整然と並べられた多数のマグロに圧倒されました。

冷凍マグロの競りを控えて仲卸人が入念なチェック。



俺は40年間マグロと向き合ってきた。マグロのことなら何でも聞かされた。でも邪魔にならないように。

競りが始まるまでに、仲卸人のみなさんは、あらかじめ切断された尾の部分の断面を入念にチェックし、切り落とされた尾の身を削って味を確かめていました。

そして、邪魔にならないかと様子を窺いながら恐る恐る声を掛けた仲卸人さんは、この道40年という大ベテラン。今日並んでいるマグロの種類や産地など、丁寧に教えていただきました。「地中海のクロマグロや南大西洋のメカジキ、インドマグロなど、ここに並んでいるマグロは、キロ800円から7,000円くらいまであるよ。見誤ったら、これだ!」と万歳のポーズ。長年、築地でマグロを値踏みされているというこのお方は、さぞや相当な眼力をお持ちと見た! 少し調子に乗って「いいマグロはどこで見分けられているのですか?」と質問すると「脂と食感だね。今日のマグロはいいよ!」と威勢のいい声が聞かれました。

3 よいよ競りが開始!

競り人が、鐘を鳴らして仲卸業者を誘導し、いよいよ競りが始まります。見学者の私たちも気持ちが高ぶってきました。

鐘の音が鳴り止むと、室内のあちこちで競り人の名調子が響き渡ります。

しかし、私たち素人には何と言っているのやら、さっぱり聞き取れません。そして、マグロはいつ、だれに競り落とされたのかも分からない!? あっという間に競りは終わり、慌しく場外に運び出されていきました。



4 してマグロは何処へ?



競りの後、素早く台車やターレに乗せられるマグロ



競りの後、場内のあちこちでこのような風景が見られます。

そして、私たち3人は、マグロを追って競り場の外へ。競り落とされたマグロは、仲卸業者が運び出し、仲卸店に持ち帰られました。仲卸店の各所では、一斉にマグロの解体が始まり、すばやい手さばきで切り身になったマグロが、競りが終わってわずか一時間足らずで店頭販売され始めました。その手際のはきは、まさに、「wonderful!」の一言です。



仲卸店でのマグロの解体。見事な包丁(刀?)さばき。



切り身にした冷凍マグロを裁断機でさらに小さく切断。といっても元がでかいですから…。



超大型の碎氷機から飛び出す氷は迫力満点。そしてかなりの年季モノ。ここにも築地市場の歴史を感じます。



場内では一般客も買い物できます。しかしキロ単位での販売など、一般家庭では少しボリュームが…。



築地には野菜もあるよ!奥のカボチャは3人分の頭より大きい。



築地市場メモ

◆歴史

江戸時代から営まれてきた日本橋魚河岸をはじめとする市場群が関東大震災で被害を受け、臨時の魚市場を開設したのが築地市場の始まりです。1935年(昭和10年)に東京市卸売市場として現在の場所(中央区築地)に築造されました。

◆初競り

毎年、話題となる初競りですが、2009年の初競りでは大間産の重さ128kgのクロマグロに、一本963万(キロあたり7万5千円)の最高値がつけました。過去の最高値は2001年の大間産の202kgのクロマグロで、なんと一本2,020万円(キロあたり10万円)という高値がまさに黒いダイヤですね。

5 とりあえず食べてみよう!



場内のお店が並ぶ魚がし横丁



これほど大量のマグロが目の前に。少しくらいは口にして帰らないと今夜の夢の中で、きっとマグロの大群が泳ぎだし、そしてうなされることになるのでは…と心配になった3人は、場内にある魚がし横丁に足を運び、お店を決めて颯爽と行列に並びました。

店の外で、愛想のいいおかみさんから「ごめんなさいね。今、お店の中は外国人の方ばかりなの。お箸の使い方に慣れていないから、時間がかかってしまうけどいい?」「もちろん、待ちます。どうぞお気になさらずに」と、いよいよ、本日のもう一つのクライマックスを待つばかりとなりました。

そういえば、マグロ見学に夢中になっていましたが、見学者とおぼしき方の大多数は外国人であったようです。「文化を知るにはまずは食文化から」日本の文化を見て、食べて、もっと日本を知っていただきたいものです。(だけど、競り場のマグロには触れないでね)

そして、日本の食文化を脅かすマグロ漁の規制が、さらにエスカレートしそうな時には、「Why? Tuna is very delicious!」と反対してくれる方が増えたらうれしいですね。



魚がし横丁の大江戸屋でマグロ丼に舌鼓。その日に競り落とされたネタ!かな? 店内は撮影禁止です。



場内には吉野家一号店も営業しています。



場外にも多数のお店が立ち並んでいます。写真はテレビでおなじみテレー伊藤さんのお兄さん、アニー伊藤さんが経営する玉子焼き屋「丸武」



最後に築地本願寺前で記念写真。只今AM7:30 さあ、着替えて事務所に直行!

◆規模、取扱高

市場の面積は約23ヘクタール。東京ドーム5個がすっぽり収まる広さです。2008年の1日あたりの取扱高は水産2,070t(金額は1,743百万円)、青果は1,202t(同323百万円)です。

◆移転計画

東京都は、施設の老朽化や場内の狭あい化が目立つ現在の市場を、2014年度に豊洲(江東区)へ移し、高度な品質管理と効率的な物流システムを取り入れた新たな市場を整備することを決定しています。しかし、移転先の土壌汚染問題など、解決すべき課題もあり、移転賛成派、反対派に分かれて揺れています。

TOPICS

2009年度 日建協 各委員会スタート!

日建協活動の方向性や内容は本部役員のみで決定されるものではありません。日建協では、毎年、各加盟組合より委員を派遣していただき、日建協本部役員とともに活動の方向性と内容の検討を行っています。今年度も私たちの労働条件の向上にむけた各委員会が次々とスタートしました。

※ Compass web版には各委員の顔写真とコメントを掲載しています。

時短推進委員会 ～時短推進にひとひねり～

2009年9月3日(木)

今年度日建協では、時短推進活動を重点活動項目として取り組み、その一環として、効果的な時短推進活動の実施方法や、新しい取り組みの企画、その他労働時間に関することについて話し合う時短推進委員会を開催しています。

第1回の会議では、11月の統一土曜閉所運動に向けた情報交換、日建協で創設を目指している時短表彰制度について討議しました。また、他産別の情報として「勤務間インターバル規制」について通建連合の藤井事務局長より講演をいただきました。

これからも、時短推進委員会では、わたしたちの時短が進むよう検討していきます。

2009年度 時短推進委員(敬称略)

伊藤 純一(戸田職組)、織田 冬紀(奥村職組)、兼松 伸次(三井住友社組)、河村 賢一(フジタ職組)、高木 章次(シミズユニオン)、仲島 康之(名工職組)、仲本 裕久(鉄建職組)、原 伸治郎(大和小田急労組)、榊 和伸(ハザマユニオン)、吉村 栄治(大日本労組)



会議風景



「勤務間インターバル規制」通建連合藤井事務局長

建築アドバイザー会議 ～今年は一味加えて!～

2009年9月8日(火)

建築アドバイザー会議では、これまでの提言活動の流れを振り返るとともに、今年度の提言活動の進め方について話し合われました。また、今年7月に実施した工期と「安全衛生・品質」に関する意識調査の提言活動へのいかし方や、提言先について討議されました。今年度は、意識調査で集められた組合員のみなさんの声をもとに、力強く提言活動をすすめていきます。

また、4週8休の必要性や、業界団体が土曜閉所に動き出したことを、組合員へ広報する必要性についても話し合われました。今年度は「民間建築工事の4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定の実現にむけて」の提言活動のタイムリーな紹介を行います。

2009年度 建築アドバイザー(敬称略)

相川 伸也(馬淵職組)、伊藤 純一(戸田職組)、今川 芳春(ハザマユニオン)、浦川 和也(佐藤職組)、笠原 康雄(飛鳥労組)、北山 大(フジタ職組)、小林 亮介(西松職組)、斎藤 誠(三井住友社組)、佐藤 武志(安藤職組)、柴田 江司(東洋職労組)、角田 大輔(大和小田急労組)、松永 克平(ペンタユニオン)



4週8休の実現にむけて力をあわせて1年間頑張ります!



今年はこの流れでここに提言するぞ 4週8休を考えています。

賃金政策委員会 ～有効な賃金政策をめざして～

2009年9月30日(水)

加盟組合と日建協本部が連帯して賃金政策活動を継続的に実施するため賃金政策委員会を開催しました。日建協賃金政策は2002年に策定されており、昨今の社会情勢を考えると見直しの時期に来ています。そのため、日建協賃金政策の見直しを複数年かけて実施します。第1回賃金政策委員会では、今年度の活動方針とスケジュールを確認し、各加盟組合の賃金制度の情報交換、建設産業に働く私たちのあるべき賃金についての基本的な考え方についての確認を行いました。今後は、賃金政策の具体的な展開に向けた検討や成果主義制度の効果と課題、賃金交渉のスケジュール、その他、賃金制度に関する勉強会等、賃金水準の向上にいかせる取り組みを検討していきたいと思えます。

2009年度 賃金政策委員(敬称略)

浅川 一寿(鴻池労組)、今村 雅泰(ピーエス三菱労組)、浦川 和也(佐藤職組)、齋藤 忠輔(東洋職労組)、斎藤 誠(三井住友社組)、佐藤 健太郎(フジタ職組)、高木 章次(シミズユニオン)、原 伸治郎(大和小田急労組)、藤枝 裕介(飛鳥労組)、武者 秀樹(ハザマユニオン)、山口 好幸(大豊労組)



会議風景



賃金水準の向上を目指して頑張ります!

土木アドバイザー会議 ～環境の変化を力に変える～

2009年9月18日(金)

第1回の土木アドバイザー会議では、現在加盟組合のみなさんにご協力をいただいている作業所アンケートの設問や実施方法の検討、提言活動の加盟組合内への広報などについて討議しました。

前号のCompass9月号(Vol.782)でも公共工事提言活動の記事を掲載しましたが、2009年4月には国土交通省から受発注者間の責任区分の明確化にむけた対策も打ち出されました。また、業界団体なども、設計変更業務における受発注者間の責任区分の明確化について声を上げていることから無報酬業務の解消にむけ一歩ずつ環境が整いつつある状況と言えます。

公共工事の提言活動では組合員のみなさんの声をもとに、無報酬業務を取り巻く環境の変化をうまく活用し、無報酬業務解消に繋げることを目標に進めてまいります。

2009年度 土木アドバイザー(敬称略)

今中 史紀(東洋職労組)、兼松 伸次(三井住友社組)、渋谷 憲昭(フジタ職組)、長野 卓(ペンタユニオン)、永山 智之(西松職組)、日暮 直孝(ハザマユニオン)、横島 修(飛鳥労組)、松井 年雅(佐藤職組)、矢島 雅夫(戸田職組)、渡邊 洋(奥村職組)



無報酬業務解消を目指し1年間頑張ります



アドバイザー会議の様子

大和小田急建設労働組合

発想力・企画力・プレゼン力の三拍子そろった小委員会 第34回定期大会での小委員会

於:ハイアットリージェンシー東京(2009.8.27)

大和小田急建設労働組合の第34回定期大会が開催され、午後からは定期大会の一部として「小委員会」が行われました。

斬新な企画を得意とする執行部メンバーによる小委員会ですから、その内容も予想を遙かに超えたものでした。「イノベーションゲーム」という事業を立案するゲームです。4グループに分かれ、それぞれが「自社の強み」・「自社の技術」・「社会問題」のヒントを関連付けて「事業」を立案し、事業内容やアピールポイントを分かりやすく図も交えながら模造紙に書き入れ、チームの代表者がみんなの前でプレゼンを行うというものです。参加者一人ひとりがアイデアを出し合い、各自の役割分担に没頭し、あっという間に3時間が経過しました。

“みんなの発想力で会社に貢献しよう”というゲームを通じ、ひとつの目標に向かって発言すること、議論することの楽しさ、チームワークの大切さ、やり遂げることの素晴らしさをみんなが肌で感じる事ができた小委員会でした。「みんなで会社を盛り上げて、楽しく、効率よく働こう」という従来からの執行部の取り組みは、しっかり活動として実践されていると感じた1日でした。

ちなみに優勝したグループの事業は「スプロール・エ



みんな役割に没頭し、あっという間の3時間!



優勝したチームの事業プレゼンの様子

リア・リニューアル・プロジェクト (S.A.R.P.)という、スプロール化した土地の有効活用事業です。近い将来、会社の業績に大きく貢献する事業となるのかな?

東洋建設職員労働組合

もっと教えて日建協活動!

日建協個別賃金セミナー

於:東洋建設(株)津田沼研修所(2009.8.29)

東洋職労組では毎年定期大会終了後に、全国から集まった大会代議員や組合執行部を対象に、セミナーを開催しています。賃金交渉では「東洋個別賃金」を掲げて臨んでおり、そのベースとなる「日建協個別賃金水準」の考え方について組合員の方にも知ってもらいたいと、今回は「日建協個別賃金セミナー」と称して日建協の賃金政策に関する勉強会が開催されました。

日建協執行委員から、建設業で働くわたしたちのあるべき賃金水準である日建協個別賃金水準の考え方について説明し、実際の賃金交渉の流れや、日建協加盟組合とのタイムリーな情報交換の有効性なども合わせて、日建協の賃金政策について紹介しました。

今回は日建協の賃金政策についての勉強会でしたが、「賃金だけでなく、他の日建協活動についても教えて欲しい」との声もあり、勉強会や広報資料をつづじた日建協活動を紹介する必要性をあらためて感じました。



パワーポイントを使っての説明



参加者のみなさん

クロスワードタイム

早いもので、2009年もあと2ヶ月足らずです。この頃時のたつのが早くなったような…。秋の日つるべ落とし。明るい時間も短くなります。時間を上手に使いたいものです。隙間の時間を使ってクロスワード。二重枠の言葉を並び替えると答えが出ます。答え、郵便番号、住所、氏名、加盟組合名、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様にクオカードを贈ります。

■メ切:12月14日(月) ■宛先:〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3階 日建協クロスワード係(Mailはこちらへnikkenkyo@nifty.com)

ヒント:白熱しています!

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10							11	
12						13		14
15			16		17			
18		19		20				
		21		22		23		24
25	26			27				
28			29			30		31
		32			33			34
35						36		

ヨコのカギ

- プロ野球団が新人選手と契約するための新人選手選択会議のことです。
- 炉やかまどなどでたくきぎのこと。「桐」の読み方は?
- 安全運転はもちろんですが、乗り物を的確に操作する方法。
- 「赤の〇〇」「〇〇行儀」「〇〇の空似」。
- その人にとっての初めての孫。
- アウトの反対語。
- foreign market price を訳すと?
- 信号や合図、しるしを英語で言うこと?
- メンチカツとコロケの弁当を最近では「〇〇〇〇弁当」と呼ぶそうです。
- 鮭の筋子を一粒ずつ離れた食品。
- 固い地面などに当たったボールが、はずんではね返ること。
- 原子核を作る、素粒子の一つ。
- 「〇〇〇〇の 奈良の都の 八重桜 けふこのへに 匂いぬるかな」
- 柑橘類の果実に多量に含まれる有機酸で、爽快な酸味がある。
- 大型トラックなどを除く普通の自動車の総称。「〇〇車」。
- 政権の交代に伴い、政治上の諸制度がすべて改革されること。「明治〇〇」。
- フクロウの別名。
- 三原色の一つ。人間の血や燃える火の色に例えられる。
- 全長約35センチ、体は細長く、紅色に輝く魚体に6本の黄色い線が走る魚で、尾びれの上端が糸状に長く伸びているのが特長です。
- 船や航空機、列車などの乗務員のこと。

タテのカギ

- 動くものを見分けることができる、目の能力。
- スポーツの秋。まずは手軽にこれから始めてみては?
- 移設問題で注目されている沖縄県にある米軍基地。〇〇間基地。
- 1,000キログラムを超えると、この重さの単位になります。
- 化学で、逆の方向の反応も可能なこと。「〇〇反応」。
- 一度やろうと思ったことを、無理にでもやり通そうとする気持ち。
- やたらにたくさん飲み食いすること。
- 1858年(安政5)から翌年にかけ、井伊直弼が尊王攘夷派に対して行った弾圧。「安政の〇〇」。
- コンサートが大盛況。興業主がまず考えることは?
- フランス生まれのメレンゲ菓子で、そのふんわりとした口当たりの軽さが人気の焼き菓子です。
- 軽くて弾力性に富み、水気・熱を通さないで、身近な所ではワインの栓などに使われています。
- 海にすむ、口が横に裂けた軟骨魚。肉は練り製品の原料に、ひれは中華料理に用いられます。
- 受験生の成績や人物評価などを、出身校の校長などが受験校に対して提出する調査書。
- ヨーロッパ中部の国際河川。スイス南部のアルプスに源を発する「〇〇川」。
- 酒飲みのことを英語で言うこと?
- 重さや重量、体重のこと。
- 鍼灸医学のつぼの一つ。膝頭の外側の下方にあるのは「足〇〇」。
- 現実のこと。また、現実的であるさまを英語で言うこと?
- 7世紀初頭に聖徳太子が公式に使節を派遣した中国の王朝は?

No.782クロスワード 正解と当選

答えは「かいわれ大根の日」でした。

シ	ョ	ク	ヨ	ク	ノ	ア	キ	ウ
カ	イ	ガ	ン	セ	ン	オ	イ	エ
イ	ノ	ツ	チ	キ	カ	ク	シ	ツ
リ	ク	ヨ	ダ	タ	レ	ン	ト	
ヨ	チ	ノ	ウ	リ	ヨ	ク	デ	
ウ		ボ	キ	ン	チ	エ	ン	ジ
コ	ウ	ソ	ク	ナ	イ	ア	シ	ン
ウ	エ	ノ	ウ	チ	ワ	ゲ	ン	カ
キ	ハ	ツ	ユ	シ	ー	イ		
シ	ヤ	カ	ウ	ヒ	ト	レ	カ	

たくさんのご応募ありがとうございました。次の方が当選されましたので、追ってクオカードをお送りします。またぜひぜひご応募くださいますようお願いいたします。お待ちしております。

江口昌治・門田拓明(安藤)、徳永宣子(鴻池)、加納幸成・竹内久美子・中木 靖(佐藤)、小澤朋子・筒井辰也(銭高)、陸田貴志・山崎明彦(大豊)、宮本正典(大和小田急)、岩井隆典・金庭勇希(鉄建)、長谷川理恵・小堀和伸(戸田)、鈴木秀幸・西野修平(飛鳥)、本庄千明(中山)、浅野 徹・伊勢谷和子・棚瀬勝広(西松)、峯 純子(ピーエス三菱)、塚原 渉・鈴木智草(ペンタ)、林 由紀子(松村)、伊藤ともえ・町村賢一(丸彦)、岡田晃一(名工)、岡本雅世・川戸三郎(横河)、

<敬称略>

船い

台風18号が西日本から北日本にかけて日本列島を縦断し、各地に被害をもたらしました。被害にあわれた方には心からお見舞いを申し上げます。また、現場でも台風対策など大変なご苦労をされたことと思います。

日建協活動にも、この台風により影響が出る事態となってしまいました。10月8日に予定されていた法政大学での出前講座ですが、台風により交通機関の不通が相次ぐなどして大学の講義が休講となったため、日程を再調整して後日に延期することになりました。2006年に開始されてから4年目をむかえますが、延期は初の事態です。日建協出前講座では建設系の学問を学ぶ大学生に対し、インフラ整備の重要性などを題材に建設業で働く魅力、素晴らしさを伝えています。今回の台風によって普段何気なく使っている交通機関がストップしてしまい、思ってもみない形で学生が「インフラの重要性」を実感する機会となったのではないかと思います。

建設業の魅力低下が叫ばれて久しい昨今、建設系の学科を卒業しながら

建設業で働くことを敬遠する学生が増えていると言われています。また、更に追い討ちをかけるように公共事業の見直し議論が進み、世間から見た「公共事業」や「インフラ整備」は本来の目的がないがしろにされ、不要なものとして位置づけられてしまっているように思われます。これにより学生の建設離れが進んでしまうことも懸念されます。

出前講座では、建設業で働く魅力や素晴らしさを、次世代を担う学生に伝え、この産業を正しく理解してもらうことを目的としています。建設業の持続的な発展のためには次世代を担う若者の育成が不可欠だと思います。産業の魅力向上のためにも、そしてこの産業が発展を続けるためにも、出前講座を推進してまいります。(若林)

「つくりあげるのは私たち、職場・環境・明るい未来」 鉄建建設職員組合

鉄建建設株式会社は1944年(昭和19年)、第二次世界大戦中における陸運輸送力の確保と増強のための国策会社である「鉄道建設興業株式会社」として設立され、以後は、鉄道施設に係る土木建築分野で技術を高めるとともに、総合建設業として手がける分野を拡大し、現在に至っています。

近年では、千葉県成田市にあった同社の技術センター内に、「鉄道建設工事」に特化した国内唯一とされる体感型の研修施設が併設されました。鉄道を中心にしたインフラ工事のトップランナーとしてこれからも信頼されるべく造られた同施設は、外部にも開放されており、鉄道工事を中心とした様々なカリキュラムを実体験できるそうです。

今回は、統一土曜閉所運動において高い閉所率を毎回マークしている鉄建建設職員組合にお邪魔してきました。

- 設立：1947年9月22日
- 本部執行委員数：13名(監査含まず)
- 組合員数：982名(2009年8月25日現在)
- 執行委員会：月1回(年12回)
- 支部：9支部



「厳しい時こそチャンスです！皆さん、頑張りましょう！」(仲本)
後列左より 稲葉賃金対策部長、高橋制度対策部長、郷家組織対策部長、古川賃金対策部長、佐々木制度対策部長、吉田組織対策部長、溝上福祉対策部長、江原教育宣伝部長
前列左より 太田代副委員長(日建協派遣)、奥田委員長、仲本書記長、日高副書記長
枠内写真(左) 田村福祉対策部長 (右) 事務局 松本さん

統一土曜閉所運動では、毎回高い閉所率(80%超)となっていますが？

閉所率向上のため、運動参加のお願いを委員長と社長の連名で流せるよう会社側にお願いしました。会社では社員のゆとりを含む「新・現場主義」という方針を掲げており、時短推進への方向性が一致したことから実現しました。また、支店幹部が顔を合わせる社内会議では各支店の閉所率データを資料として配布してもらいましたが、結果、支店単位でも各支店幹部が意識して運動への参加を社員に対し呼びかけてくれるようになりました。



奥田委員長

運動の周知にも労使で協力して取り組んでいるのですね？

当社のイントラは、「社員が知っておかなければならない情報」がトップ画面に1週間単位で代わる代わる表示されます。その画面を通過しないと「社内掲示板」も「受注情報」も開けない仕組みです。そのトップ画面に社長と委員長連名による運動参加願いを載せました。同様に「必読メール」という社員全員に送信される重要性の高い情報の発信システムもあるのですが、そちらでも運動の周知を徹底しました。組合から情報を発信しても会社全体まで届かないし、組合員以外からの運動への理解が得にくい。閉所率の向上はこの運動が組合内の情報に終わらず、全社で周知されたことが大きな理由の一つです。11月の統一土曜閉所運動も社内報で特集記事を掲載します。社の広報誌に取り上げられることで今後の推進活動の中でも大きな一歩につながると思います。閉所率100%をめざして今後も取り組みます。

今年度から独自の土曜閉所推進日を設定していますね？

7月と10月に設定しています。年度初めには統一土曜閉所運動日と推進日をアナウンスし、早くから工程に盛り込んでもらいま

た。7月は完全閉所率が37.8%で読み替えの率は調査していません。組合としては「決められたその日に閉所するための計画を立ててもらいたい」と思っています。今後も推進日は完全閉所率だけで向上策を議論していきたいと思えます。



仲本書記長

「ワーク・ライフ・バランス」について、どうお考えですか？

(奥田委員長) 組合としてはバランスを取れるように推進しなければなりません、それも個人がメリハリをきちんとつけ、一人ひとりがバランスを取るよう意識しなければ無意味です。私はワークを前向きに取り組むようにしています。同じ業務でもイヤイヤではなく、前向きに取り組めば成果は違ったものになるし、逆にライフの充実にもつながってくると思います。

(仲本書記長) 日本では通勤時間を含めワークに費やす時間が多過ぎる方がいます。ぜひその時間をライフ=休息や趣味、社会活動等、今の仕事を離れたところにも振り分けてもらい、より多くの引出しやアイデアを生み出してもらいたい。それが「やりがい」につながれば良いし、私自身もそうありたいと思えますね。

鉄建建設には社員全員が年度の初めに5日間の連続休暇予定を申請し有給を取得する「計画的有給取得制度」というシステムがあるそうです。

「長い間、会社側と現場異動時休暇制度について話し合ってきて、振替休日・代休のシステム、有給の消化率、内外勤の休日取得格差といった問題点を整理できていないなかで『現場異動時休暇制度の実現性』が議論になり、休暇制度の話自体が頓挫しかかりました。そこで労使が歩み寄り『とにかく休めるシステムを作ろう』となって出来上がった制度です」

執行部のこの話が、より確実に休むために労使が一致協力して取り組んでいる鉄建建設職員組合の姿を表しています。取材協力、どうもありがとうございました。